

超短期間日食ツアー

松枝直美

日程表	時刻	航空会社
10日(金) 成田発	10:30	JAL
ジャカルタ着(ハリム)	18:10	
SAHIDO JAYA HOTEL 泊		
11日(土) ジャカルタ発(ケマヨラン)	7:05	GARUDA
スラバヤ着	8:25	
日食観測 9時~12時		
スラバヤ発	15:15	GARUDA
ジャカルタ着(ケマヨラン)	16:35	
ジャカルタ発(ハリム)	19:50	JAL(機中泊)
12日(日) 成田着	7:20	

時間の余裕のない日食中毒患者2名は、ただ、ただ、憧れの美しき太陽の姿を一目見たい一心で、計画をたて始めたのです。できるだけ安価に、短期間で往復することが課題でした。そこで旅行社を数社あたってみましたが、私の判断力の鈍さと混雑も手伝って、後手にまわってしまい、ようやく一週間前にノーマル料金で、ジョグジャ行きをきめたのです。

しかし、ジャカルタ⇄ジョグジャ間が、キャンセル待ちのまま、見切り発車をし、箱崎でのチェックインの直前まで、皆既帯に入る交通の手段と観測地を検討していました。その結果、ジョグジャをとりやめにして、日食当日、確実に窓口にて先着順に買える往復可能なスラバヤへの道を選ぶことにしました。

11日、早朝、まだ夜の明けやらぬジャカルタ市内をケマヨラン空港に向けタクシーをとばし、日食の入場券であるスラバヤまでの航空券をやっと手に入れたのです。

スラバヤ空港に着くやいなや、さっそくに帰りのチケットをもとめ、FLAMBOYANの木々の木陰で小型の栗毛の馬が草を食んでいる、のどかな空港前の駐車場を観測地にきめました。

食の始まるまでには、一時間ほどの余裕があり、土屋氏は、黒い雨傘を広げ、自作の装置で気象観測を始め、私は、双眼鏡のレンズをリスフィルムで包み、コロナをスケッチするために準備にかかりました。

いずこも同じ物見高い10名程の人びとが集まり、われわれの行動の一部始終に熱い視線を向けていました。そこへヒョッコリ、空港にお客様を出迎へにみえた現地にある『世界の味の素』の方が現われ、きょうのにぎやかな会社の様子を話して行かれました。100メートル先ではオーストラリアの方2名が観測を行っていました。

当日の空は、地平線近くに雲があり、太陽の西側にもすこし巻雲がでていましたが、観測には支障なく、気温24度、やや風があり、想像していたよりずっと涼しくめぐまれた環境下でした。

食が進むにつれて、街路灯のナトリウムランプがオレンジ色の光を放ち、鳥はけたたましくさえずり、後方より幻想的なイスラム教の祈りの声が風によって響き、いよいよ、待ちに待った11時35分、神秘的空間のクライマックスを迎えたのです。この日のヒロインは、シルクタッチの美しいコロナの衣をまとい、彼女の心はプロミネンスの情熱的鮮紅色に燃えて、装飾品は南洋玉のようなダイヤモンドリングでした。長くもあり、短かくもあつた4分24秒はまさに白昼夢でした。また、また、騒いでしまったかしら？

第4接触まで観測をしてもフライトまでには、十分な時間がありましたが、第3接触が終わると、早々とかたづけてしまい、空港に隣接したホテルのレストランで軽い食事をすませ、空港内のソファで、今、通りすぎていった『黒い太陽』の余韻にひたり、満ちたりた幸福感の中、茫然自失の状態でジャカルタ行き便を待ちました。

これで当分の間、日食中毒症は小康状態になり、夢にまで出てくるような禁断症状は現われることはないでしょう。